

群馬県資料 「特別支援学校と 福祉避難所の課題」

群馬県立藤岡特別支援学校
PTA会長 下田 好行



群馬県立藤岡 特別支援学校

障害種：知的障害 平成27年4月1日開校

小学部（35）・中学部（20）・高等部（27）全82名

通学：市内から45人 市外から37人

ハザードマップ：0.5～3 m、1階床上浸水、神流川まで2km

2019東日本台風567mm

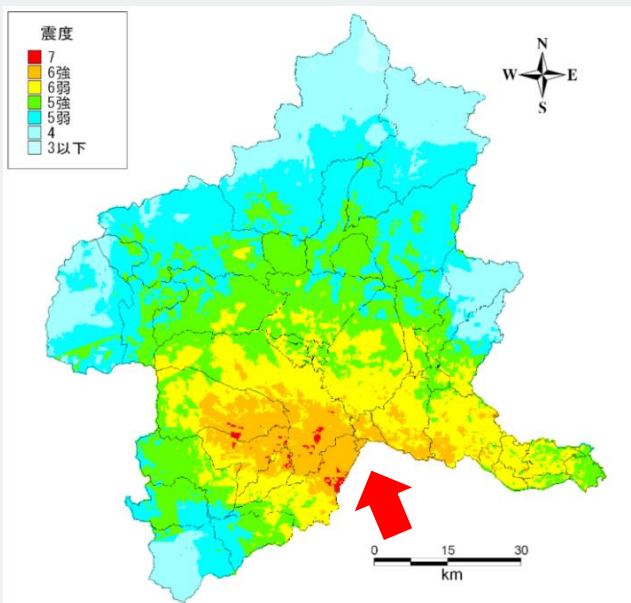
利根川・井野川・鍬川・烏川氾濫危険

フオッサマグナの東側：深谷断層 綾瀬川断層 平井断層

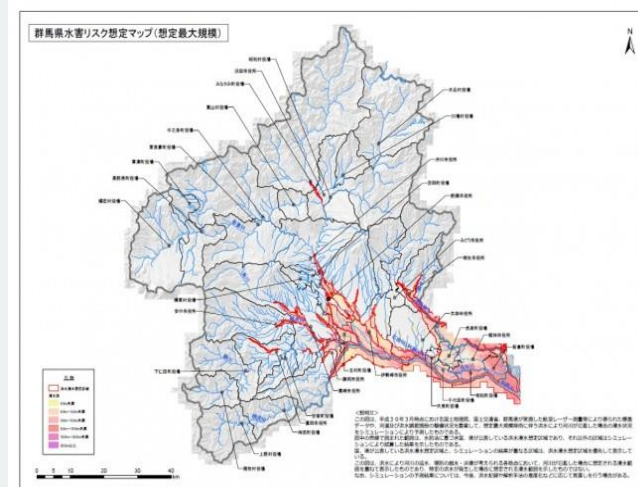
中央構造線 諏訪ー下仁田ー東松山ー越谷ー成田

1931西埼玉地震M6.9 1923関東大震災M7.5

818関東諸国の地震M7.5



想定地震の断層位置図



引き渡し訓練



非常食



- ・ P T Aと学校が協力 防災・減災活動「引き渡し訓練」と「非常食」の学校保管
- ・ 「引き渡し訓練」1学期の終業式の日 保護者と児童生徒の名前を確認 身分証明書の提示 設定のリアリティー 通れない道 危ない箇所 自宅が水没地域 学校の方が安全な場合も
- ・ 「非常食」は学期ごと 賞味期限を確認 学校保管 2食分
- ・ 防災・減災の講演会 12月8日 温井恵美子氏
- ・ 「避難訓練」は学校の取り組み 洪水 地震

実行委員会での審議

1 藤岡特別支援学校が、直接避難できる（指定福祉避難所）か、一般避難所を経由しての福祉避難所か、既存の福祉避難所に行くか、それとも？

2 PTA実行員会審議経過

(1) 7月16日 PTA会長・顧問・副部長・PTA担当、(2) 9月8日臨時PTA実行委員会、(3) 9月24日PTA実行委員会

(4) 10月6日 全校のPTA宛てに実行委員会審議経過報告 意見聴取

3 審議で出てきた内容

(1) 藤岡特別支援学校 ハザードマップ0.5m～3m地域 水害の避難所にはならない

(2) 藤岡市の地域安全課は「指定福祉避難所は作らない。福祉避難所なら作れる。特別支援学校を福祉避難所にするなら、保護者と相談して避難する人数を出してほしい。」

・群馬県は伊勢崎と沼田が指定福祉避難所 全国では熊本県の1校、長野県の2校 滋賀県の1校等

(3) 福祉避難所の運営

・地域安全課は「福祉避難所の運営は教員が行う（夜も）保護者は要支援者の付き添いで、運営には回れない
地域福祉課は運営にタッチしない」と回答 藤岡市は複合施設「ふじまる」が福祉避難所となる

(4) 要支援者の選定

・藤岡市地域安全課は、まずは指定避難所に行く そこで配慮が必要な場合、福祉避難所に行く

・松戸市の福祉避難所は、精神保健福祉手帳2級以上、療育手帳はA級以上

・「福祉避難所は要支援者と付き添いだけなので、指定避難所の家族と分かれることもある」（群馬県社会福祉協議会災害福祉センター長）

・全国手をつなぐ育成会連合会事務局長「省庁へ特別支援学校の福祉避難所の活用を盛り込んでいるが、避難所の運営を誰が行うかが問題で、実現が難しい課題であると認識している」

PTAの意見と福祉避難所の課題

1 PTAからの意見

- ・町の避難訓練に参加したとき、子どもが騒いでしまって困った ストレスがかかる 情緒障害に対応できる避難所が欲しい 放課後等デイサービスと協力できないか
- ・子どもは落ち着いてじっとしてはいられない そうした状況でも過ごせる避難所が欲しい
- ・床上浸水地域の特別支援学校は、水害の避難所になれないのか？
- ・地域安全課に藤岡特別支援学校の児童生徒の様子を見に来てもらい、そのうえで避難の計画を考えて欲しい
- ・福祉避難所の要配慮者ケア・運営は教員にできるのか 教員は地域の人ではない
- ・水害にも対応できる福祉避難所をもっと作ってほしい 複合施設「ふじまる」に入れる障害の基準は何か
- ・藤岡市以外の児童生徒は近くの指定避難所に行く可能性がある

2 特別支援学校は指定福祉避難所になりにくいのか

- ・自主防災組織がない 避難所の運営をする人がいない
- ・福祉避難所では要配慮者のケアと運営は教員 教員は授業がある 自分の家族と分断する可能性
- ・福祉避難所に入る基準がわからない 水害の場合は自宅のハザードマップの位置 地震の場合は療育手帳・精神保健手帳の級
- ・福祉避難所は要配慮者と付添人だけ 家族と分断する可能性 環境が急激に変化 かえって本人には負担
- ・複合施設「ふじまる」に何人避難できるのか 概数は読めているのか

3 防災・減災と避難所の課題

- ・福祉避難所は足りるか 「ふじまる」の収容数 藤岡特支の要避難者数 介護・妊婦・通級とのバランス
- ・知的と発達障害 投薬・精神医療 障害者の安心できる環境 要支援者＋付添人＋運営者（家族） 県の支援
- ・運営者をどのように作るか 避難者と運営者のWinWinの関係 指定と福祉の中間の避難所 放デイとの連携
- ・本部長を中心とした統括組織を 地域安全課・福祉課・介護課・教育委員会・子ども課・保健所を連携させる

千葉県資料 「PTAとしての防災 へのかかわり」

発表校名称 発表者氏名

【本校の紹介】

本物の働く力を育み笑顔輝く生徒の育成
～全ての生徒の豊かな社会参加の実現と企業就労を目指す～



急傾斜地の崩壊

傾斜度が三十度以上である土地が崩壊する自然現象

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）の詳細は [こちら](#)

凡例

	指定済	指定予定
特別警戒区域		
警戒区域		

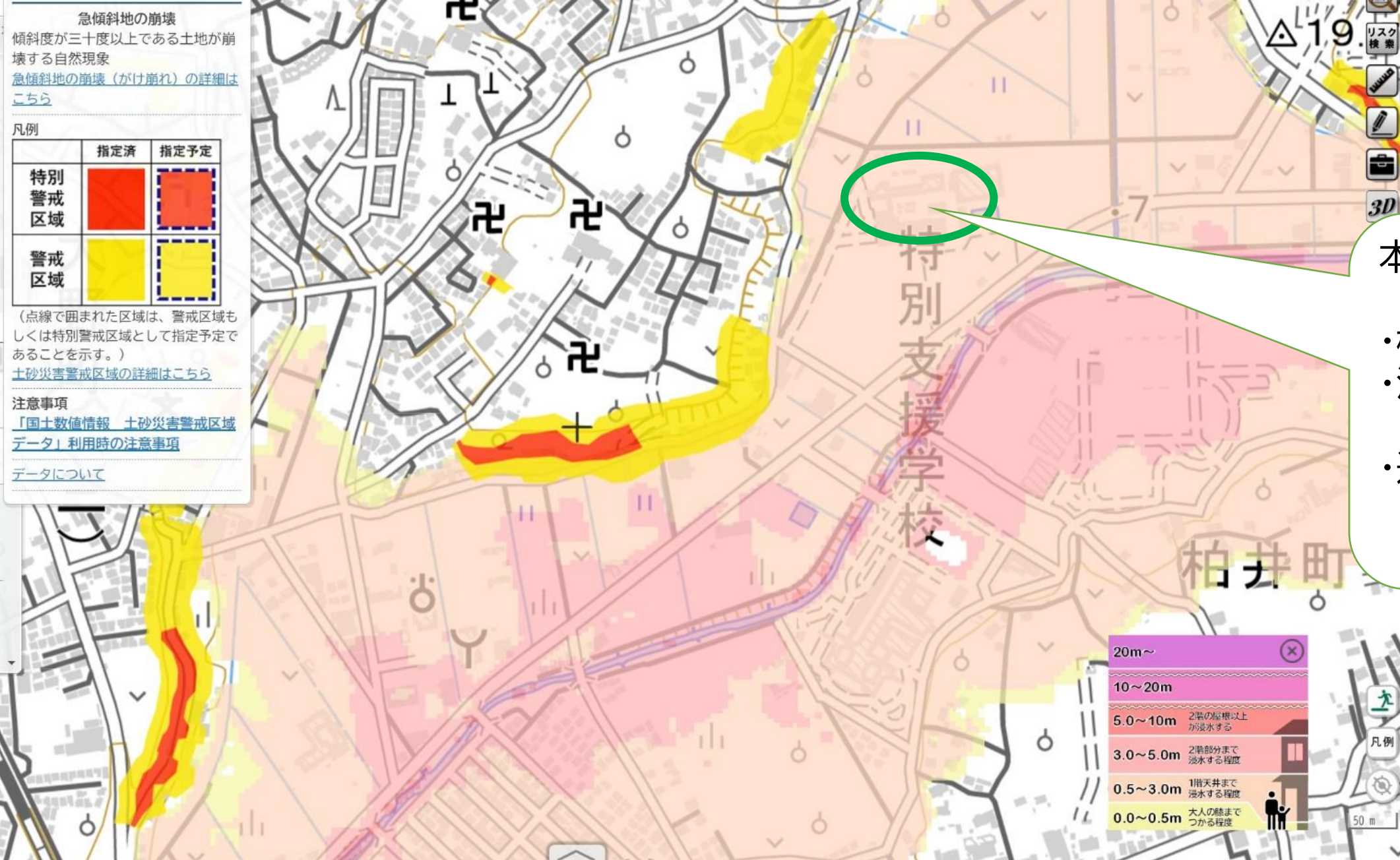
（点線で囲まれた区域は、警戒区域もしくは特別警戒区域として指定予定であることを示す。）

[土砂災害警戒区域の詳細はこちら](#)

注意事項

「[国土数値情報 土砂災害警戒区域データ](#)」利用時の注意事項

[データについて](#)



本校の位置

- ・標高7～8m
- ・浸水被害の想定は50cm～3m
- ・通学路には土砂災害危険エリアがある

重なるハザードマップ

備蓄食



生徒の備蓄食として購入
(使用しなければ卒業時に配付)



体育祭に配付
(生徒・職員)



文化祭に配付
(生徒・職員)



その他の備蓄品



ポータブル電池



ウォータータンク



防災用ヘルメット



災害時用毛布



使い捨てカイロ



ハイブリッドシート



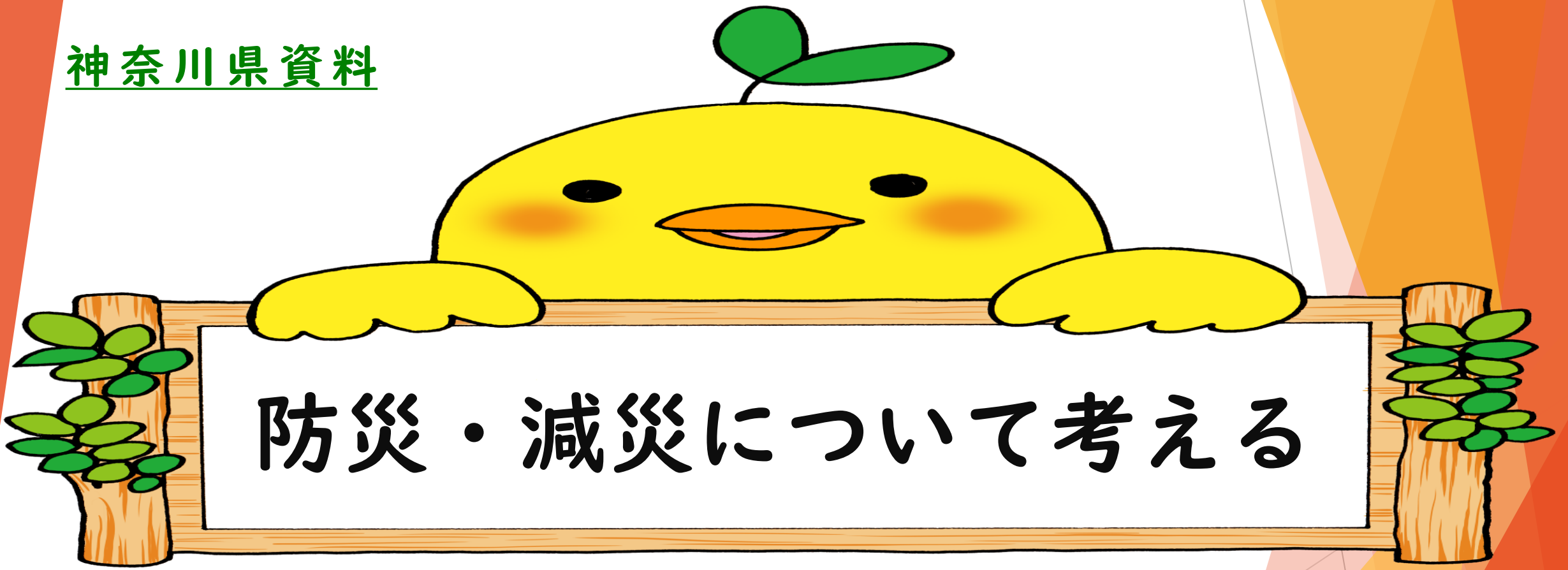
防犯カメラ

コミュニティスクール への参加



まとめ

神奈川県資料



防災・減災について考える

～ 防災対策の取り組み～

神奈川県立相模原支援学校

込 山 果 恋



神奈川県立相模原支援学校

神奈川県相模原市にある「相模原支援学校」は、昭和50年に設立された知的障がいのある児童・生徒のための特別支援学校です。

平成18年には「橋本分教室」も開設されました。



創立50周年
花いっぱい
プロジェクト



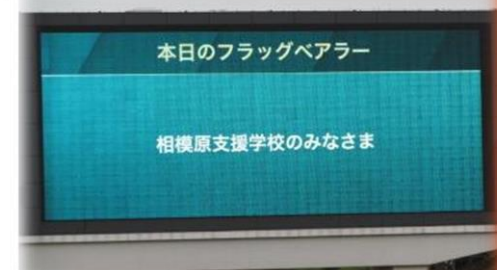
東日本旅客鉄道株式会社
横浜支社町田総括センター
協働



50周年記念
テーマソング



ギオンスタジアム
ボランティア活動



救助袋（避難シューター）斜降式

先生方の取り組み写真

救助袋設置に取りかかる
(7名程の要員)



両方の端を押さえて滑り終えた所を
人を安全に受け止める様子。



3階の教室の窓から
救助袋(避難用滑り台)を
固定し終えた様子。
実際はトンネルのような構造。
※3階～1階の高さ



設備を準備する時間に多くがとられてしまうこと、
救助袋ですべることが難しい生徒たちが多い見込みの為
抱えて逃げるor通常の避難経路での避難を想定！

今年度の防災・訓練の様子

※本校は福祉避難所に指定されている。(日常の生活が困難な要介護者等)
近隣に公立の小学校が2校位置しているため。



一区画の青いレジャーシート



段ボールベット



生徒たちは普段から過ごしている教室での避難を想定
震災発生時に近隣の方が避難をしてきた場合の対応が課題

避難訓練の取り組み

けむり体験をしている様子



小学部避難訓練の様子



シェイクアウト訓練



地震の発生を想定し、各自がその場で「まず低く・頭を守り・動かない」という安全行動を約1分間とり、身につけていくという実施訓練のことです。

相模原支援では警報アラーム音を校内放送で流し、警報音が鳴ったら低く身をかめるという行動を小学部～高等部の生徒たちみんながインプットしていました。

クールダウン用のマットレスを代用して訓練している様子



ご 清 聴 あ り が と う ご ざ い ま し た ！



埼玉県資料 「防災について考える」

埼玉県立所沢おおぞら特別支援学校
教頭 木村 岩雄

埼玉県立所沢おおぞら特別支援学校

- 旧所沢東高等学校の跡地を改修し、平成22年4月に開校。
- 同じ校舎内に、知的障害のある子供と肢体不自由のある子供が共に学ぶ学校。
- 小学部、中学部、高等部
- 学校教育目標
「のびのびと きずな深めて たくましく」
- 目指す学校像
「社会の中で自立的に生活できる力を育む学校」



所沢おおぞら特別支援学校
マスコット『そらにゃん』



本校は知肢併設校です！

肢体不自由教育部門

知的障害教育部門

小学部
中学部
高等部
訪問部

小学部
中学部
高等部



防災グッズの取組

- 令和4・5年度に防災グッズを全校児童生徒分を購入し、各家庭へ配布。

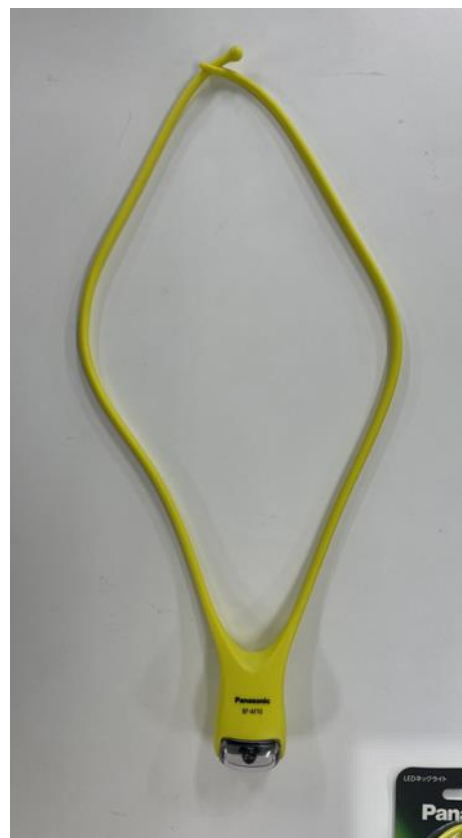
＜配布した物品＞

- 防災グッズ
- ネックライト



防災グッズの取組

- ・クリスマスプレゼントとして、授業の中で子供たちに渡した。
- ・配布後は、各家庭で活用している。



今後の防災教育に向けて



<防災グッズへの慣れ>

- ・ 防災グッズをご家庭で子供と一緒に触れて、触ってみる。
- ・ お気に入りのグッズや菓子も入れて安心感を持たせる。
- ・ 水や非常食を日頃からご家庭で食べる体験をしておく。



<避難行動の習慣化>

- ・ ご家庭で「防災ごっこ（練習）」を取り入れて、机の下へもぐる、暗い中玄関まで歩く練習などをする。
- ・ 繰り返し練習をして、実際の警告音や雰囲気慣れしておく。

茨城県資料

「本校における防災・減災に係る活動について」

茨城県立境特別支援学校PTA会長 加藤 久美子
防災安全担当 市村 有輝

学校概要



本校は、県立境西高等学校の校舎を改修し、県内で23番目に設置された知的障害を有する児童生徒が通う特別支援学校です。
(平成24年4月開校)

茨城県の最西端にある特別支援学校として、古河市、境町、五霞町、坂東市の4市町に住む児童生徒が通学しています。

公式キャラクター

令和3年度に開校10周年を迎え、公式キャラクターの「さかとっくん」が誕生しました。



本校における防災・減災に係る取り組み

今年度の主な取り組み

- ・ 第1回避難訓練（地震）5月30日実施
- ・ 第1回引き渡し訓練実施
- ・ 消火器訓練（職員向け）
- ・ 境町総合防災訓練 参加
- ・ 避難所設営訓練（職員向け）
- ・ 第2回避難訓練（火災）9月18日実施
- ・ 第3回避難訓練（地震→火災）2月9日実施予定
- ・ 毎月1回のシェイクアウト訓練（地震）
（6月は竜巻、7月は火災、10月はJアラート）



PTA本部役員の取り組み

- ・ 年度初めの各市町訪問

境町	危機管理部防災安全課	・ 避難所の場所や設備の確認 ・ 避難経路や備蓄品の確認 ・ 障害児者や高齢者への細かい配慮の確認 →保護者へ報告
古河市	総務部消防防災課	
坂東市	総務部交通防災課	
五霞町	総務部防災係	

- ・ 学校防災連絡会議への参加

坂東消防署境分署、境町防災安全課、境町消防団、塚崎地区区長、PTA、学校職員が出席。
学校や地域の防災・減災への取り組みについて保護者の立場で意見協議をしています。

本校における防災・減災に係る取り組み

令和6年度学校安全総合支援事業

本校は、令和6年度に学校安全総合支援事業に取り組みました。本校を拠点校として、近隣の学校やPTA、地域の方々と協力しながら実践的な防災教育活動を実施しました。

境特別支援学校	近隣校職員の参加
- 各学年での計画的な防災学習 - 防災大使任命 - 避難訓練（煙体験） - 避難所体験、非常食体験 - 防災に関する校外学習（境町防災タワー等） - 防災に関連した学校間交流 - 防災教育推進（起震車体験、煙体験、AR・VR体験、防災スリッパづくり、防災キノコクエスト、防災ハンドブック作成など）	- 防災交流学习 - 拠点校への訪問研修 - 防災研修



命を守ろう！～keep our safe～

さわがずに落ち着いて！

かぶろうヘルメット！

ともだちと一緒に逃げよう！

くらすみんなで助け合おう！



まとめ

- 学校防災への参画
(避難訓練、防災連絡会議、持ち出しバッグ準備等)
- 地域住民と学校間、関係機関との連携の継続
- 危機発生時の具体的な想定と体制の整備
(引き渡し訓練で確認)



栃木県資料 「防災・減災について考える 一本校の取り組み」

栃木県立那須特別支援学校 星野岳史

学校概要

- ・本校は、昭和53年に開校した、栃木県北部の那須塩原市にある、自然豊かな学校。
- ・全校児童生徒数は、296名（小学部104名、中学部6高等部111名、訪問教育学級15名）。
- ・「明るく つよく 美しく」を生活目標として、児童生徒がのびのびと、楽しく、安全に過ごせる学校を目指している。
- ・今年度からPTA組織を見直しを行い、PTA会員が活動に参加しやすい



環境を整えるよう取り組んでいる（専門委員会の廃止、地域イベントの活用等）



学校の取り組み

<避難訓練> (ホームページ等で紹介)

①地震・火災 (4月、9月)

- ・「お・か・し・も」で避難態勢をとる。ヘルメットの着用
- ・出火場所や避難場所を変えて実施。

②不審者対応 (5月)

- ・不審者対応教育週間として、各学級で実施。

③竜巻 (7月)

- ・窓ガラスが飛散、教室の机、椅子などが散乱し、通信機器(内線電話や放送機器)が不通を想定。



PTAと連携した学校の取り組み

<引き渡し訓練（5月）>

- ・全児童生徒と保護者が対象。児童生徒は体育館に避難
保護者は「引き渡し証」をダウンロードし、受付時に確



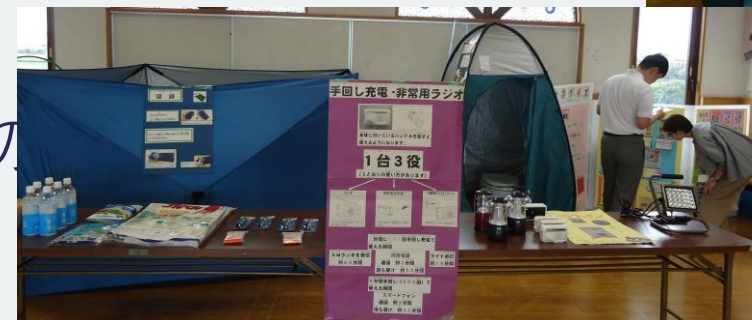
<防災教育週間（9月）>

- ・防災用品の体験（簡易トイレ、テント、寝袋、手回しラジオなど）、防災・避難所生活等に関するクイズ。
- ・送迎時などに親子で展示内容を確認。



<緊急時安否確認システムの導入>

- ・災害発生時に、児童生徒や保護者等の
安否情報を確実に確認・把握。



PTAの取り組み、まとめ

<PTAとして>

- ・ 有事の際の安否確認や情報共有等を目的の一つとして、PTA支部会(5支部)ごとに LINEの連絡網を作成。

◎まとめ

- ・ 学校では、前年度の反省を踏まえ、改善を重ねて避難訓練を実施している。ホームページで、保護者にも訓練時の様子を知らせ、家庭での話題作り、防災意識の啓発を行っている。
- ・ 引き渡し訓練、防災週間の展示等、保護者の協力が必要なものについては、学校と連携を図りながら実施し、保護者の防災意識を高めている。
- ・ 今後の課題
 - 保護者への啓発（防災に関する研修や情報提供など）
 - 災害発生後の地域での居場所の確保 など

新潟県資料 「防災・減災について考える」

新潟県立新発田竹俣特別支援学校 発表丸山 小夜子

新潟県立新発田竹俣特別支援学校

当校は、新潟県新発田市の田園地帯にある学校です。校舎は2階建ての木造校舎です。平成29年に閉校となった竹俣小学校を活用して開校しました。現在、中学部・高等部の生徒合わせて77名が学んでいます。





③ 防災グッズや避難所で使われる用具の体験

PTA活動での防災の取り組み

- ①緊急時引き渡し訓練
- ②救急法講習会
- ③各家庭での最寄りの避難所の確認
- ④備蓄品の確認や調理 & 試食

まとめ

- ・個々の安全確保と自立の促進
- ・共助と連携の強化
- ・社会全体の防災力の向上

長野県防災・減災対策 ベストプラクティス集

長野県養護学校PTA連合会 会長

発表者 高田 圭

長野県松本養護学校 概要

- ・ 創立 53 年（昭和 47 年開校）
- ・ 児童生徒数： 276 人
（本校： 239 人）
（分室・分教室： 37 人）
【R7.10.1現在】
- ・ 学校目標「わたしから
わたしらしく せいいっぱい」
- ・ 松養マン  正義の味方
として活躍



目次

1. リアリティを追求した訓練・計画の実践的アプローチ
2. 備蓄と施設設備の工夫による課題解決
3. 共助と自助をはぐくむための、学校全体の意識改革
4. 今後の展望

1. リアリティを追求した 訓練・計画の 実践的アプローチ

水害リスクを前提とした「非滞在」戦略（飯山・上田養護学校）

- 地理的リスク（千曲川増水による**帰宅ルート寸断**）を具体的に分析
- 「本校には留まらない」という戦略的判断に基づき、**迅速な保護者引き渡しを目的とした訓練**を実施
- 職員のみによる対岸の中学校への二次避難移動訓練を実施し、課題を事前に把握（飯山）

大規模校の現実的課題認識（稲荷山養護学校）

- 在籍数320名、**車椅子・医療的ケア・呼吸器**を要する生徒も在籍（知肢併置校）
- 「学校一斉での避難はとても厳しい」という現実的な課題認識が対策の出発点
- 可能な限り早い段階での**保護者引き渡しを最優先戦略**と位置づけ検証

外部専門家による実効性の向上

学校単独の限界を超え、専門的知見と「共助」の体制を強化

- **専門家の活用**：防災アドバイザーの白神晃子先生（立正大）を招聘し、防災計画策定や訓練に具体的な指導・助言を導入（飯山養護学校）
- **「学校安全総合支援事業」の活用**：有識者の指導のもとで取り組みを継続的に更新（長野養護学校）

地域連携による実効性の向上

学校単独の限界を超え、専門的知見と「共助」の体制を強化



・地域社会との協働

地区避難所指定の木曽養護学校は、地区と合同で避難訓練を年1回実施

2. 備蓄と施設設備の工夫 による課題解決

限られたリソースを最大化する備蓄戦略

PTA連携と既存施設を活用した備蓄品確保・管理の工夫



学校名	備蓄戦略の要点	特徴と考察
安曇養護学校	PTA補助金活用と 既存倉庫の「防災倉庫」への転用	寄宿舍用と兼ねることで夜間災害に対応。 ただし、寄付頼りの飲料水安定供給に課題
飯田養護学校	浸水リスクを考慮 した備蓄品の移動と集約	防災倉庫がない中、浸水リスクの低い 2階教室、基礎の高い新校舎の階段下倉庫 へ備蓄品を運び集約
共通課題	予算不足と必要量の確保	多くの学校がPTA予算に依存。 計画的かつ継続的な安全投資が困難な実態が浮き彫り

既存資産の独創的な活用



スクールバスの転用

「動く防災倉庫」という発想（伊那養護学校）

スクールバスを「免振機能のついた防災倉庫」として活用

※運行時は移動中の被災に備え、非運行時は分散配置された備蓄拠点としての機能を追加。コストを最小限に抑え、防災能力を向上させる戦略

医療的ケアへのインフラ対策

医療的ケア対策（稲荷山養護学校）

停電時に呼吸器等の医療機器へ電源を供給するため発電機を導入

※災害時、医療的ケアを維持するための対策

3. 共助と自助を育むための、学校全体の意識改革

保護者と連携した個別対応の強化

全校一斉が困難な養護学校における「個別の避難計画」

- **個別の避難計画**（伊那養護学校）
支援会議などを活用し、保護者と共に児童生徒ごとの
リスクと対応策を共有する計画を作成

保護者と連携した個別対応の強化

全校一斉が困難な養護学校における「個人の備え」



- **個別の非常持出袋の推奨**

各家庭に個人用の非常持出袋（医薬品、アレルギー対応食）を準備

（伊那、松本、木曽養護学校）

※発災直後の混乱期に**個々に必要な物資を確保**するための
学校の備蓄を補完する上で重要

防災意識を醸成する教育的アプローチ

防災を「訓練」ではなく、主体的な「学び」とするための工夫



段ボールベッド作り（高等部）

- 「防災の日」の設定：長野養護学校（長養防災の日）や、木曽養護学校（木曽養防災の日）で**全校で集中的に防災を学ぶ機会を創出**
- 体験学習の導入：段ボールベッド作り（長野）、県の防災課職員を招聘した専門的な学習（木曽）といった**体験学習を実施**

防災意識を醸成する教育的アプローチ

防災を「訓練」ではなく、主体的な「学び」とするための工夫



防災備蓄品展の様子



- ・意識啓発イベント：夏休み中に「**防災備蓄品展**」を開催し、職員やその家族の自助意識向上を促進（伊那養護学校）

※学校内だけの課題とせず、コミュニティ全体に広げていこうとする意欲的な試み

4. 今後の展望

未来に向けた強化目標：3つの戦略的方向

共通課題の解決に向け、養護学校が目指すべき防災エコシステムの構築

避難計画の最適化

資源の重点的確保

防災エコシステムの構築

訓練シナリオを現実に即した形に進化



全児童生徒・職員に行き渡る備蓄品を計画的に確保



地域社会との連携を積極的に推進

誰もが即座に使える実用的なマニュアルを整備



医療的ケア児への個別対応
を最優先で強化



平時から「共助」の仕組みを地域に根付かせる

ご静聴ありがとうございました